

## 平成 30 年度 学校関係者評価委員会 議事録

YIC リハビリテーション大学校 会議室

平成 30 年 6 月 25 日 15:00～16:30

### 出席者

(委員) 金井和明, 宮内順子, 信久美佐子, 綿谷昌明,  
(学校: 事務局) 中村校長, 山本副校長, 三井事務長, 藤井事務次長,  
渡辺作業療法学科長, 松原理学療法学科長, 加藤教員, 上原教員

### 1. 校長あいさつ (中村校長)

### 2. 定足数確認, 委員長の選出 (上原)

定足数確認. 2 名の委員 (保護者代表 廣島委員 地元企業等関係者 白川委員) が欠席されることを報告. 既定の過半数を超えるため本会議は成立する.

委員長に信久委員, 副委員長に綿谷委員を推薦. 全員の賛同により承認された.

### 3. 議事 (信久委員長, 綿谷副委員長)

#### (1) 2017 年度の報告

##### ・ 2017 年度の重点項目と取り組みについて (検証) (山本)

#### 1) 重点項目 (1) 国家試験 100% 達成 (加藤)

①昨年度, 一昨年度を踏まえて取り組んだ. 4 年生は 10 月の学力試験結果により早期に補習対象者を選定し個別指導を行った. 業者模試を追加し, 学内の模擬試では専門分野を追加した.

②1～3 年生への対策では学力確認試験の実施, 早い段階で国家試験に触れさせることが目的である. 学内の期末試験問題について, 今後の難易度調節のため保管 (フォルダ) した.

#### 2) 重点項目 (2) 新カリキュラム作成 (山本)

①新カリキュラム作成にあたり現行カリキュラムの問題点・改善点の洗い出しを行った.

②当初は大学化に対応できるカリキュラムを目指していたが, 香川学園との合併がなくなり, 方向性としては実践力に重点を置いたカリキュラムを作成することで学内のコンセンサスを得た.

③厚労省による指定規則改正が 1 年遅れたことから, 平成 31 年 7 月完成, 32 年度生からの適用を目指すこととした.

#### 3) 重点項目 (3) 入学者数増 (三井)

①オープンキャンパス参加者数は前年度より減少したが, 内容の工夫等行い出願に関しての歩留まり率 (来校者に対する出願者の割合) は前年度より約 20% 増加した.

②高校ガイダンス, 出前授業への参加はほぼ前年並みであった.

③ホームページの有効活用ではアクセス数を増加させる工夫をした結果, 増加した.

④高校教員との良好な人間関係を構築するため, 高校訪問を実施した. 随時学校情報をタイムリーに提供できた.

・2017 年度自己点検評価結果について（上原）

2016 年度から評価（◎○×）を上げた項目，下げた項目について説明．

評価を下げた項目

- ①「結果に基づく授業観察を実施しているか」：内部教員による相互の授業観察は形式化している点で内容の検討が必要．
- ②「学内外実習時の安全対策に関して文書化されているか」：学外実習は充実しているが学内実習は明文化されていない．
- ③「卒業生（同窓生）の 1 年後の就職状況を把握しているか」：できていないため今後検討が必要．

評価を上げた項目

- ①「企業・地域・行政との連携を図っているか」：社会貢献事業，新カリキュラムの地域実習等充実した．
- ②「企業の会（就職後援会等）はあるか」：実習指導者会議等を通じて多くの病院施設の協力を得ている．
- ③「学校生活不適応，学業不振，問題行動等の早期発見，早期指導の組織的体制が整っている」：YIC グループ総合支援部による定期的なカウンセリングが充実した．
- ④「地域対象の特別講演等は適切に計画・実施されているか」：①同様．

・2017 年度の学科報告（渡辺・松原）

国家試験合格率・就職率・退学率の報告．国家試験合格率は両学科とも全国平均を下回った．就職率は両学科とも 100%であるが，理学療法学科では国家試験後の就職活動をする学生が多く，全員の就職内定が決まるのが例年になく遅かった．両学科とも退学率は目標 3%を上回っている．休学中の学生の退学が多くを占める．

・質疑応答

＜自己点検評価について＞

宮内委員：自己点検評価結果の「結果に基づく授業観察」は外部講師にも行っているか．内部教員であれば否定的な意見も相互に言えるであろうが，外部講師には言いにくいだろう．

山本：学内教員の教育力を向上させるため，まずは内部教員に行っている．可能であれば外部講師の授業観察ができれば教育の質が向上すると考える．数年続けているため内容が形式的になっているため新しい取り組みが必要と考えている．

中村：本校は外部講師が占める割合が高く，大事な指摘である．授業終了時に行う学生の授業評価の結果を外部講師に見ていただいている．

＜学科報告について＞

金井委員：休学者が退学するという報告があるが，奨学金を借りているものが退学すると返還が難しいとテレビなどで聞くが，当校の状況はどうか．

三井：学生支援機構より滞納率のデータの報告があり，全国平均は下回っている．返還できていない者はそれほど多くない様子である．

中村：3 年次・4 年次での退学では奨学金が大きな借金になるため，できるだけ高学年での留年・退学

を防ぎたい。

#### <入学者数・広報活動について>

綿谷委員：オープンキャンパス・ホームページの活用の件、実際にはオープンキャンパス参加者はどのくらい出願しているか。

三井：両学科ともオープンキャンパス参加者の 65%前後が出願している。高校の指導として 2 校以上のオープンキャンパスに参加し比較するよう勧めているようである。

綿谷委員：各学科とも在籍数が少ないと報告があったが、山口県内の学校数や定員が適当か等も考えることが必要ではないか。定員割れの状況に慣れてしまわないよう策を講じることが必要。

山本：職能団体としての取り組みも必要と考える。当校では高校生にわかりやすい説明や医療職を志向する高校生に対して選択肢が広がるような説明をしている。

中村：以前より作業療法学科の入学生減少は全国的な問題である。学校と職能団体または学校同士が連携して認知度を上げる取り組みが必要であろう。

信久委員：小学生対象のイベントと高校生対象のオープンキャンパスはあるが中学生対象の企画がない。今後検討していく必要があるのではないか。

信久委員：ホームページをもう少しわかりやすくできるとよいのではないか。他校のホームページをみると写真を多用し、授業風景や学生が楽しんでいる様子が見て分かるようになっている。ホームページを見ている高校生は多いため学生募集のツールとして大事と思う。

三井：検討したい。

#### <就職支援・卒後について>

宮内委員：卒業後、就職した学生の職場定着率など把握しているか。また就職後数カ月で辞める人もいるが、就職時の助言等がどのように行っているか。

渡辺：強くは介入できていないのが現状。

中村：作業療法士・理学療法士の動向について県士会では把握しているか。

宮内委員：会員については把握している。

金井委員：同窓会でも完全には把握できていない。

### (2) 2018 年度重点項目と取り組みについて（計画）（山本）

#### 1) 重点項目（1）国家試験合格率 100%達成（加藤）

##### <4 年生への対応>

①解剖整理運動学の知識定着および 3 点問題の理解度を向上させる。

合格可能性検定試験の分野を変更する。

②学習の定着化を図る。

昨年度まで使用していた参考書を変更、かつ新しい参考書を導入する。

##### <1～3 年生への対応>

③国家試験形式の問題の早期実施により難易度を実感させる。

業者模擬試験回数を 2 回へ増やす。

④国家試験につながる授業を提供する。

学外講師へ国家試験過去問題の情報提供を行い、授業に活用してもらう。校内教員では授業で

の国家試験問題の活用状況の実態把握をする。

2) 重点項目 (2) 新カリキュラム作成 (山本)

今年度 8 月までにスケジュールを作成し, 9 月から新カリキュラム作成作業に入る。共通科目, 専門科目のカリキュラムを 3 月までに作成させる。次年度カリキュラム案のシミュレーションを実施し, 7 月までに完成させたい。

3) 重点項目 (3) 入学者数増 (三井)

高校ガイダンス, オープンキャンパスでは統一のツールを使用し伝達内容が教員によって異ならないように共有を図る。ガイダンス・オープンキャンパス等種別で伝達内容を変える。

山口県東部エリアの高校生へのアプローチとして出張オープンキャンパスを開催する。

ホームページや SNS の活用では, twitter, instagram など写真・画像や動画を活用したい。

4) 重点項目 (4) Classi 活用による所年次教育の定着 (加藤)

スマートフォンのアプリを使って実施するもの。両学科の 1 年生を対象としている。毎日の課題を経て, 週 1 回国家試験対策基礎講座を実施する。5 月末までの試験結果を経て, フォローを必要とする学生を抽出している。

・質疑応答

<Classi について>

金井委員: スマートフォンを持っていない学生はどのくらいいるか。

加藤: 今年度の 1 年生は 1 名。購入は強制しない。パソコン室のパソコン, 学内のパソコンで WiFi をつないで対応している。自宅のパソコンでも実施可能である。現在はスマートフォン購入している。

<新カリキュラムについて>

綿谷委員: 新カリキュラム作成について, 実習の内容にも変更があるか。

山本: 実習時間の 2/3 以上が医療提供施設, そのうち 1/4 以上が病院または診療所での実習を行うことになっている。新たに訪問リハビリテーション, 通所リハビリテーションでの実習を 1 単位行うことになった。病院・施設で実習させていただく中で, 1 週間を訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーションで実習させていただくことが現実的かと考える。この形態で実習可能な病院・施設を調査する。

4. その他 (上原)

(1) 学校の年間予定について

(2) 学校パンフレット・募集要項・年報について

以上  
議事録作成者  
上原奈緒子